ケアラーズカフェ『みちくさ亭』

おしゃべり、息抜き、相談できるコミュニティサロン

「介護している人がつぶれてはすべてが駄目になる。一人で抱え込まないで、背負い込まないで。ここに来ておしゃべりして、息抜きして、知識を提供していこう。それには介護者だけではなく、地域の理解者を増やし、声を掛け合い、助け合う。そのような交流の居場所がほしい」と介護福祉士の布川佐登美さん(55)は昨年10月15日、柏市藤心に自宅を開放して「ケアラーズカフェ&いきぬき処　みちくさ亭」(柏市藤心1-29-12)を開いた。

地元の野菜を使ったある日のランチ

入口前では、地元の野菜を売る

ケアラー※ズカフェ(介護者支援カフェ)として活動している所は全国でも珍しく、10月の時点で千葉県初、全国でも4番目だった。

ここは、介護者に限らず、誰でもが利用できるコミュニティサロンでもあり、「週替わりに手作りランチとデザート」を提供しているほか、アロママッサージ、歌や体操、ゲームなどを楽しむ「いきいき元気くらぶ」、「介護者のおしゃべり会」、「ワークショップ」などイベントも開いている。特に酵素や発酵食を取り入れ、地元の野菜を使った健康的で栄養バランスの良い「手作りランチ・ドリンク付」700円、デザート付きは1000円と好評だ。店頭には地元農家の野菜も並んでいる。

「みちくさ亭」開店のきっかけは、当時、府中市に住んでいた布川さんは、藤心で一人暮らしをする母親を週2、3回通いで4年間、遠距離介護していた。それも夜中の12時頃に実家に到着して朝6時に自宅に戻るという生活を余儀なくされた。このままでは続かないと東京に呼んだものの、今度は義理の母と実の母の介護が布川さんを待っていた。誰にも相談できず、頼ることもなく、認知症の理解もなく、一人で何もかも背負い込んだ。

すると、布川さん自身が重い「介護うつ」が発病、3年間入退院を繰り返した。自らの体験から「何もかも自分一人では解決出来ない。介護者が息抜きでき相談できる、おしゃべりができる居場所を作りたい」と思いを巡らしていた矢先、TVでケアラーズサロンの活動を知り「これだ」と判断。即、行動を起こした。

開店の半年前、取りあえず「人の流れを作ろう」と近くの農家に声をかけ、野菜を家の前で販売すると同時に、「ケアラーズカフェと立ち上げます」の手作りのチラシで宣伝。2カ月で600枚配った。すると、口コミなどで野菜を買いに来る人も増え、カフェの存在が大きくなった。

「野菜が人を作って縁を作ってくれた」と布川さんほほ笑む。

介護者に、「介護者支援で何を望みますか」を問うと「特別なことはや情報もいらない。私を楽しませてくれる場が欲しい」と言うそうで、今後ますます、このような居場所の必要性が増えると予想される。

※ケアラーとは高齢者や障害者、要介護者を介護または世話をしている家族や親近者。

「みちくさ亭」の営業時間は毎週火・水・木の11時～17時、ランチタイムは14時まで。

問い合わせ☎04・7138・5032。

野田産の食材をアピール

27店がフード・スイーツで競う

「NODA産FOODフェスタ」に参加した店の代表ら

野田の食材をアピールする食の祭典「NODA産FOODフェスタ」が、23日、清水公園ア駐車場で開かれた。

同イベントは、地元の食で元気になろうとの呼びかけ」として、今年初めて開催された。市内から27店が集まり、工夫を凝らした料理やスイーツで競い合った。ブランド豚やブランドポークなどを多く見られた。1000人の来場者があった。

投票の結果、野田の食材を使った門の最優秀賞は、割烹みのわ（野田市）の店舗に決まった。

子どもの広場　ゆうび

子文連の「atta会議」に参加して

3つのキーワードで人を復

「子どもに係わる活動をしている私達が今出来ることは?!」というテーマの「柏子どもの文化連絡会（通称子文連）」で、「人を殺してみたかった、そんな言葉を残し家族や教師や友人をターゲットにした少年・少女達。私達は彼らの胸の内をどれだけ理解出来るのでしょうか？柏でも動物を虐待する行為が起きていると聞きます。これ以上悲しい事件を起こさせない為に、私達大人が気づき上手く関わる為には、なにが必要なのでしょう？皆さんと一緒に考えていきたい」という主旨の「atta会議」に参加した。

の誕生日祝
まれてきた
インタビュ
在」と暗に
②婚葬祭◆
祭に連動し
の仲間が集
する。悲し
う。信愛の
ある。

サンマを食べて東日本震災復興支援をする「大さんま祭り」が6日、松戸市平賀の「NPO法人ふれあいネットまつど」事務所前の駐車場で開かれた。12月7日には、震災後から交流している宮城県東松島市で、子ども達との「クリスマス会」を予定し、大震災を風化させない取り組みを続けている。

同ふれあいネットまつどは2011年6月から00匹が炭火で焼かれ、参加者は秋の味覚を楽しんだ。友達と二人で来ていた菅美津子さん(72)は「一人で食事をしてもおいしくないのよね。こういう行事があると嬉しい。2

リスマス会」の日帰りバスツアーの支援スタッフとボランティアを募集中。当日は、クリスマス会の手伝いと参加して、被災者と交流を深める。初参加は友設住宅などを見学する。